

2013
秀作

第46回「おかねの作文」コンクール



お金の表情

神奈川県・洗足学園中学校 1年 西 由愛花

年間売上が約33万円で1万7,269円の純利益。私には5,500円が配当金として還元された。私は3年ほど前からA社の株主だ。100株持っている。売上や利益の話は、その100株に対する金額だ。

6歳の頃から毎年、A社が主催する夏ライブに行っていた。お昼過ぎから夜の9時頃まで、10組以上が次々に登場する。夏休みを締めくくる家族行事で、倒れそうな暑さだったり、ゲリラ豪雨で大切な本やかばんが大変な状態になったこともあったが、音楽もダンスもお祭りも大好きな私は、すごく楽しかった。だからA社には、何か楽しい会社というイメージを持っていた。

ある年、父が株主限定の優待ライブに行ったときに、家族で来ている株主を見て、株主になることを勧めてくれた。世の中のお金に関する勉強にもなると言ってくれた。

小学生だった私は、株の意味も当然よく分からず、株主というのはその会社の会員の別名か何かかと思っていた。でも実は、株主は会社の中で一番偉く、会社を作る存在だと知り、驚いた。

毎年株主総会の時期になると、株主宛てに難しい用語や数字が並んだ資料が送られてくる。総会の前には白黒の本当に難しそうなもの、総会の後になると、カラーの写真やグラフが載って少し親しみやすい株主通信が来る。難しそうなので毎年パラパラ見て終わるのだが、今年は少しちゃんと内容を確認してみた。

A社は音楽の会社だが、音楽事業の売上は半分だけで、残りの半分は、映像、マネジメント／ライブ事業だそうだ。音楽事業の売上は減少しているが、映像、マネジメント／ライブ事業の売上は伸びており、特に映像事業は2年前の約2倍になっている。映像事業には、DVD以外に、B社やC社と一緒にやっている携帯電話向けの映像配信があり、それが伸びていることが「A社が切り拓く映像新時代」というタイトルで説明されている。私が好きなアーティストは、最初





はA社ばかりだったのが、最近では違うレコード会社のほうが増えてきているので、売上や利益が増えているというのはあまりピンとこなかったが、この「映像配信」という説明を読んで、少し納得した。他の会社も、実はきっと私が思っているイメージとは全然違う商品が売れていたりするのかなあ、と思った。

この株主通信によると、100株あたりの売上高が約33万円（純利益の約19倍）になる。そこから、売上原価、販売費、一般管理費を引いたものが営業利益、さらに税金などが引かれて最後に残ったものが純利益で、それが、1万7,269円。33万円もあったのに、利益はこんなに少ししか残らないのかと、私は正直驚いた。が、父によれば、「それは利益率が高いほうだよ。もっと低いところもたくさんあるよ」。私のもとには配当金として5,500円が還元された。

日本のこれからの景気を表すといわれる日経平均株価は、私が株主になったときからほとんど変わっていなかったが、安倍内閣が発足し、その経済対策「アベノミクス」の効果もあって、この9ヶ月で約1.5倍になった。A社の株価は、会社の好調な業績と日本全体の景気の両方を反映するから、約2.5倍になっている。売ったり、買ったりはしない約束だが、最近は株価に興味を持って見ることも増えてきた。株を売買するほうが、銀行預金より得なのではと思ったりもするが、株価には波があったり、配当もゼロになったり、さらには会社が倒産すると株はただになってしまうリスクもあったり。このようにリスクが多いと受け取れるお金も多いことを「ハイリスク・ハイリターン」、逆に銀行預金のようにリスクが少ないと受け取れるお金も少ないことを「ローリスク・ローリターン」というそうだ。

A社の資料には、いくつかの銀行から借入をしていることも書かれている。私は今年初めて自分のはんこを作り、母と一緒に窓口へ行って、銀行口座を作った。私が生まれたときに両親が作ってくれた口座もあるのだが、中学入学を機に、自分ではんこのデザインを選び、書類を記入し、はんこを押した。0円から始まった通帳に、お年玉などを預金してみると、今まで実感がわきにくかったお金というものが、何か少し違うものに思えた。自分の手の中にあっただけのお金が、口座の中に入って姿を変えたことが、妙に嬉しかった。私が預けたお金は、どこの会社に貸し出されていくのだろう。毎日めまぐるしく表情を変える株価も見ている飽きないが、正反対に自分が出し入れしたときだけ表情を変えるこのお金も、





どこか愛らしく思えた。

<参考文献>

・ A社「第26期株主通信」2013年6月

(編注) 文中の企業名は筆者了解のもと、A社等としました。

